SKYMAN WORLDTIME
S368X-17

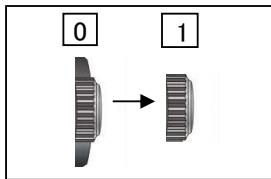
操作説明書（操作各部名称）

図 1

■はじめに

ご使用の前に必ずこの「操作説明書」と別途添付の小冊子「取扱説明書・保証書」をお読みになってからご使用してください。

■時刻の修正方法

図 2

①時刻を合わせる時は、リューズを1段引き出して「1」のポジションにします。
（この時、秒針が停止します）
その状態でリューズを回転させると時分針が動きますので、現在の時刻へ合わせてください。
②時刻の修正が完了したら、元の「0」のポジションへリューズを押し戻してください。

■デジタル機能の種類と操作方法

A ： TIME MODE（時刻機能、サマータイム機能付き）
B ： CALENDR MODE（カレンダー機能）
C ： ALARM（アラーム機能）
D ： CHRONOGRAPH（クロノグラフ機能）
E ： TIMER（タイマー）
※Aボタンを押すごとに、インジケータがA～Eの順に切り替わります。

●サマータイムについて
夏の期間だけ標準時刻を一時間早め、日照時間を有効に利用するための制度。
期間は地域によって様々だが、欧米では広く利用されている。

●UTCについて
Coordinated Universal Time（協定世界時）の略称で、世界標準時の基準。
天体観測を元にしたGMT（グリニッジ標準時）に代わり、現在では原子時計をベースとしたUTCが世界基準になっている。
JST（日本標準時）はUTCを9時間進めた時刻で、UTC+9となる。

■ ご注意いただきたいこと
●この時計は一般の時計と比べて回転ベゼル部が特殊な構造になっております。日常生活防水の防水性は汗や多少の水がかかる程度は問題ありませんが、水中につける行為はお止めください。曇りや水入りの原因となります。
●時刻修正を行った後は、リューズが完全に押し込まれていることをご確認ください。押し込まれていないと防水性が著しく低下しますので、曇りや水入りの原因となります。

A：サマータイム機能（時刻設定、サマータイム設定）

●Bボタンを長めに押すと、下段のインジケーター右上に「SMT/OFF」と表示されます。その時にCボタンを
1回押すと「SMT/OFF」から「SMT/ON」に変わり、サマータイム機能がONになります（もう一度押すとOFFになります）。

●「SMT/ON」の状態でBボタンを1回押すと「秒」、もう一度押すと「分」、更に押す毎に「時」「24H」「セット完了」と
切り替わります。Cボタンを押すと、表示されている項目が修正されます。
「24H」とは時刻の表示形式の事で、12時間表示（12H）のどちらかを選ぶことができます。

B：カレンダー機能（年月日の修正）

●Aボタンを押し、下段インジケーター左下に「CAL」を表示させます。
（BボタンまたはCボタンで、上段に表示されている都市名を修正する都市に変更できます）

●Bボタンを長めに押すと「Month（月）」の部分が点滅します。もう一度押すと「Day（日）」、更に「Year（西暦）」、
「セット完了（元に戻る）」と切り替わります。Cボタンを押すと、点滅している箇所が修正できます。

C：アラーム機能（アラームの設定）

●Aボタンを押し、下段インジケーターの下部に「ALM」を表示させます。

●Bボタンを長めに押すと「OFF」の部分が点滅します。この時にCボタンを押すことで、アラーム機能の
ON/OFFを切り替えることができます。

●もう一度Bボタンを押すと、上段のインジケーターに表示されている「CITY（都市名）」が点滅します。
次にBボタンを押すと「HOUR（時）」「MINUTE（分）」へと切り替わりますので、それぞれが点滅している時に
Cボタンを押してアラームを作動させたい時刻に合わせてください。

D：クロノグラフ機能

このクロノグラフは100分の1秒計測で、最大12時間の時間測定ができます（スプリット機能）。

●Aボタンを押し、下段インジケーターの下部中央に「CHR」を表示させます。

●Cボタンを押すと“ピッ”と電子音が鳴り、時間測定がスタートします。もう一度押すとストップします。
（計測中にBボタンを押すと、スプリットタイムが表示されます）

●Bボタンを押すと、計測をリセットします。

E：タイマー機能（タイマー設定）

●Aボタンを押し、下段インジケーターの右下に「TMR」を表示させます。

●上段インジケーター表示が点滅し、Bボタンを押すと「60M～01M」の間で選択できます。
（60M＝60分です。最大60分間のカウントダウンが可能です）

●測定したい任意の時間（分）を表示させ、Cボタンを押すとカウントダウンが開始します。

●カウントダウンが終了すると“ピピピッ”と電子音が鳴って知らせてくれます。

都市表示名一覧 ※名前の前に表示されている数字は世界標準時を基準とした±の時刻です。

±0	UTC	Coordinated Universal Time	+9	TKO	Tokyo
	LON	London	+10	SYD	Sydney
+1	PAR	Paris		GUM	Guam
	ROM	Rome	+11	NOU	Noumea
	BER	Berlin	+12	AKL	Auckland
	MAD	Madrid	−10	HNL	Honolulu
+2	JNB	Johannesburg	−9	ANC	Anchorage
+3	MOW	Moscow	−8	LAX	Los Angeles
+4	DXB	Dubai		SAN	San Diego
+5	KHI	Karachi	−6	DFW	Dallas
+5.5	DEL	Delhi		CHI	Chicago
+7	BKK	Bangkok		MEX	Mexico
+8	SIN	Singapore	−5	NYC	New York City
	HKG	Hong Kong	−3	SAO	Sao Paulo
	BJS	Beijing		BUE	Buenos Aires

■ベゼルを使って世界の時刻を知る方法

1.UTC（協定世界時）をデジタルで表示する。

上部インジケーターにUTCが表示されるようにセットし、下部インジケーターにUTC時刻を表示させます。
ここでは仮に、UTC時刻は15時台となります。

2.目盛りを合わせる

インナーベゼルのUTC目盛り（赤文字）を、文字盤24時間目盛りの15の位置に合わせます。

これで、世界の各都市の現在時刻に合わせたこととなります。

3.読む

知りたい都市に対応する時刻を読みます。
例えば、ニューヨークの時刻を知りたい場合は、ベゼルのNEWYORKを見ると10なので午前10時となります。

同様に、TOKYOを見ると24なので、午前0時であることが分かります。

参考：東京に居る場合、現在の時間と同じ文字盤の24時間目盛りをベゼルのTOKYOと合わせても表示できます。

KENTEX

SKYMAN WORLDTIME　　38 CITY TIME ZONE

ケンテックス ワールドタイムは、世界各国の都市をデジタル表示で29都市を、
また、アナログ（ベゼル部）でも29都市を知ることができます。
両方あわせると、世界の38都市の時刻を知ることができます。

デジタル表示部を常にUTC時刻表示にしておくことでパイロットにとって有用なUTC時間と世界の
都市を同時に知ることのできる便利な機能となっています。

	TIME ZONE DIFFERENCE	NAME OF CITY		DEGITAL INDICATOR	BEZEL INDICATOR
0	±0	UTC	Cordinated Universal Time	●	●
1	±0	LON	London	●	●
2	+1	PAR	Paris	●	●
3	+1	ROM	Rome	●	●
4	+1	BER	Berlin	●	
5	+1	MAD	Madrid	●	
6	+2	JNB	Johannesburg	●	
7	+2		Cairo		●
8	+3	MOW	Moscow	●	●
9	+4	DXB	Dubai	●	●
10	+5	KHI	Karachi	●	●
11	+5.5	DEL	Delhi	●	
12	+6		Dacca		●
13	+7	BKK	Bangkok	●	●
14	+8	SIN	Singapore	●	
15	+8	HKG	HongKong	●	●
16	+8	BJS	Beijing	●	●
17	+9	TYO	Tokyo	●	●
18	+10	SYD	Sydney	●	●
19	+10	GUM	Guam	●	●
20	+11	NOU	Noumea	●	●
21	+12	AKL	Auckland	●	●
22	+12		Fiji		●
23	−11		Midway		●
24	−10	HNL	Honolulu	●	●
25	−9	ANC	Anchorage	●	●
26	−8	LAX	Los Angels	●	●
27	−8	SAN	San Diego	●	
28	−7		Denver		●
29	−6	DFW	Dallas	●	
30	−6	CHI	Chicago	●	●
31	−6	MEX	Mexico	●	●
32	−5	NYC	New york	●	●
33	−4		Caracas		●
34	−3		Rio		●
35	−3	SAO	Sao Paulo	●	
36	−3	BUE	Buenos Aires	●	
37	−2	S.Georgia			●
38	−1	Azores			●